

I 事業計画の概要

令和4年度事業計画

令和4年度の日本経済は、公的支出による経済下支えの下、消費の回復や堅調な設備投資に牽引される形で、民需主導の自律的な成長により回復していくものと見込まれている。しかしながら、原油など原材料費の高騰やロシアのウクライナ侵攻で下振れリスクに注意が必要であり、先行き不確実性は高い。

一方、私立大学の入学定員割れ状況は、平成29年度以降改善傾向にあったが、令和3年度は前年度に比べて93校増加し277校となり、全体に占める割合は15.4ポイント上昇し46.6%となった。平成30年以降18歳人口の減少は続いており、私立大学を取り巻く経営環境は一層厳しい状況を迎える。

大学においては、引き続き、新型コロナウイルス感染症が本学の志願動向にどのような影響を及ぼすのか不透明な中、今年度も学生の安定的確保を最優先課題として全学を挙げて取り組む。

教学面では、ハイブリット型授業環境及びネットワークの整備拡充により、対面及びオンライン授業を安定的に提供するとともに、学修者本位の主体的な学修時間を確保し、教育の質の向上を図る。また、コロナ禍により休退学者の増加が想定されることから、昨年度に引き続き教学アドバイザー等による個別指導機会の拡充により、休退学抑制の強化を図る。更に、今年度下半期には、現行の「教務システム」に「学修支援システム」との連携、そして「学修成果可視化システム」の機能を加えた「新教務関連システム」を稼働させ、教育の質保証の向上並びに教学事務の効率化を図ることとする。

新たな広報戦略として昨年度から取り組んできた大学ブランド力向上については、「選ばれる大学」としての信頼と価値を高めていくためブランドビジョンを基に、一貫した形での情報発信を展開し、学生募集活動の推進と本学の教育・研究の認知度向上を図ることとする。

高校においては、今年度から学科再編を行い、特別進学コースと総合進学コースからなる普通科と4つのコースからなる科学技術科として再スタートすることとする。東北工業大学との連携を強化し、東北工業大学が有している魅力や特色を再構築し、特色ある学校づくりを目指していく。併せて、広報のベースとなるホームページの充実・強化やSNSの媒体等の有効活用により生徒・保護者にタイムリーに情報発信し、志願者・入学者の確保に努めていく。また、校内運営組織の見直しを行いスリム化するとともに、意思決定の迅速化を図ることにより、学校運営に一体感・スピード感を醸成していくこととする。

今後の教育研究環境を整備していくため、今年度も主たる収入財源である学生生徒等納付金収入と補助金収入を確保するとともに、厳正な予算執行により予算に掲げた基本金組入前当年度収支差額を確保し、財政基盤の強化に取り組むこととする。また、八木山キャンパス整備基本計画に従い、本年9月には新棟1期（実験・教育棟）の供用を開始する予定である。さらに、今後計画している新棟2期の建設の一環として既存建物の改修に向け、ローリング計画を策定する。なお、今年度も引続き中期計画「TOHTECH2023」に掲げた施策を着実に実行していくこととする。

II 事業計画の内容

1. 大学部門

(1) 教育

- ア. 教育の質保証
- イ. 休退学抑制の強化
- ウ. 学生受け入れ
- エ. 新たな教育・人材育成
- オ. 就職支援の強化
- カ. 課外活動の推進

(2) 研究

- ア. 東北 SDGs(Sustainable Development Goals)研究実践拠点形成事業の推進
- イ. プロジェクト研究所の推進
- ウ. 大学院の強化

(3) 地域社会貢献

- ア. 地域未来構築事業
- イ. サテライトキャンパスの将来計画の検討
- ウ. 地域活性化教育の推進

(4) ガバナンス

(5) 施設設備

- ア. 教務関連システムの更改
- イ. 授業録画配信システムの機能拡張
- ウ. ネットワークの強化及び冗長化
- エ. 図書館の将来計画の検討
- オ. 八木山キャンパス・カーボンニュートラルの検討
- カ. Web 出願システムの機能拡充

(6) 連携・交流

- ア. 高大接続の推進
- イ. 国際交流活動
- ウ. 後援会・同窓会との連携強化

2. 高校部門

(1) 教育活動の充実

- ア. 教科指導力の向上
- イ. ICT 教育の推進

(2) 多様な生徒への教育支援の充実

(3) 学校運営

- ア. 学科改編による特色ある学校づくり
- イ. 学校運営体制の見直し
- ウ. 生徒募集に向けた戦略的活動の実践
- エ. 校務支援システムの導入
- オ. 東北工業大学との連携と進学者確保
- カ. 危機管理体制の強化

3. 法人部門

(1) 財政基盤の強化

ア. 収入の確保

イ. 支出の抑制

(2) 学生への経済的支援制度の継続実施

(3) 業務のデジタル化の推進

(4) 危機管理体制の充実

(5) 施設・設備の改修

(6) 八木山キャンパス整備基本計画の推進

(7) 寄付金募集事業計画の推進